

平成 30 年 2 月 10 日

北海道の将来を見据えた鉄道網(維持困難線区)のあり方について
～持続的な鉄道網の確立に向けて～
取りまとめにあたって

鉄道ネットワーク・ワーキングチーム・フォローアップ会議
座長 岸 邦宏

今回のフォローアップ会議での集中審議では、維持困難線区のあり方について、現状の線区の利用状況、地域特性、そして北海道全体あるいは地域の将来の交通ネットワークのあり方はどうあるべきか、最適な交通のための議論の方向性はどうか、という観点で取りまとめました。

結果として各線区の方角性はすべて同じということにはなりません。しかし、鉄道の重要性を「優先順位」という言葉でまとめるべきではないと考えております。

すべての地域が北海道にとって等しく重要で、北海道が我が国に果たしている役割を考えると、すべての地域が我が国にとっても重要で、そして、**それぞれの地域において、地域や北海道全体を維持、発展させるために適した交通手段があり、それらの重要性はどの地域も等しいものであります。**

よって、線区のあり方は、優先順位といった、地域の相対評価で比較するべきものではありません。ましてや、**鉄道の存続の議論の結果を「勝ち負け」で考えたり、「地方の切り捨て」と考えることは、今後の北海道がバラバラになり、間違った方向に進んでしまいます。**

「北海道や地域にとって最適な交通は何か」という議論は、すべての地域において取り組んでいかなければなりません。

道と市町村、JR北海道、国などが一体となって議論し、道民がみんなで鉄道をはじめとする公共交通の維持、活性化に協働で取り組み、北海道が、そして地域が発展できる交通ネットワークがつくられていくことを願っております。